

ひと味違う 年末年始

師走。年内にやっておかなければならないことがあれこれで、仕事や行事に追われてしまう。毎年のことながら、今年こそはほっとひと息入れて、新しい年を迎える。そこで、いつもの年とは少し違った年末年始を送るための情報を届けます。

女性起業家プランコンペ

新規事業に取り組もうとしている、あるいは
組みはじめた事業を大きくしたい。そんな
岡の女性起業家は、日本政策投資銀行（DBJ）
が募集する「第3回DBJ女性新ビジネスプラ
コンペティション」に年末年始の休みを使って
ヤレンジしてみては。

受賞者には最大1000万円の事業奨励金が
給される。さらに1年間、専門家や先輩女性起業
家によるアドバイスなどのサポートが受けら
れる。

対象は創業期にある女性経営者による事業で
技術、サービス、ビジネスモデルなどにおいて
新性が高く、事業性が高いビジネスプラン。応
期間は12月16日から14年2月28日（17時必着）
で。問い合わせは企業金融第6部女性起業サポ
トセンター（03・3244・1652）へ。

ビルの屋上がカキ小屋に

天神の中心で力キを焼く。夏のビアガーデンでおなじみの福岡ビル（福岡市中央区）の屋上に、今年の冬は初めて力キ小屋がお目見え。11月にオープンした「磯貝めんちゃんこのかきこや」は新鮮な力キを1キログラム1200円から味わえる。街なかで本格力キ焼きが楽しめるとあつて大盛況。平日は300人以上、土日は400人以上の客でにぎわう。

力キ以外もメニューをそろえているが、一番人気はやっぱり力キ。寒さにつれて大きさが増す福岡県糸島産「みるくがき」が好評とか。営業時間は昼の部11時、夜の部16時、夜22時。夜のみ入場料1500円（飲み放題付き）。店休日は12月31日と1月1日。1200席あるが予約した方が確実。問い合わせは磯貝めんちゃんこのかきこや（080-3948-9777）へ。



もう1杯飲んでも大丈夫

福岡市交通局は12月の毎週金曜日に臨時列車「フライデー・ナイト・トレイン」を走らせる。空港線・箱崎線・七隈線で最終電車の発着を通常より30分延長。増発もして、深夜まで混み合う年末の車内を少しづつとさせる狙いだ。接続するJR筑肥線（姪浜 筑前前原）と西鉄貝塚線（貝塚 西鉄新宮）も臨時列車を運行する。

金曜日は筑前原行き最終電車が博多0時37分発、天神0時43分発となる。箱崎線は貝塚行き最終が天神0時27分発、七隈線は終電が天神南を0時30分に出る。運行日は12月6日、13日、20日と27日の4日間。普段は飲み会終盤で時計が気にならぬ人も、忘年会では「あともう一杯」が落ち着いて楽しめそ。

運行時刻や本数の問い合わせは、福岡市交通局（092・734・7800）へ。



中洲に新名所「一蘭屋台」

いよいよ冬本番。暖かい屋台で肩を寄せ合ひ、うまい酒を飲みつまみに箸をのばす。そして締めはラーメン。そんな屋台を愛する福岡のビジネスパーソンにうつてつけの新名所が福岡市博多区中洲に登場した。とんこつラーメン「一蘭」が経営する屋内屋台「一蘭屋台」だ。場所は中洲西大橋そば。たくさんの赤いちょうちんが目印の一蘭本社1階。30人は楽に座れる。ネオンや看板はどこか懐かしい昭和の屋台を連想させる。同社社長室の小島里江子さんのお薦めメニューは「豚の巻」。トマトやレタス、ズッキーなどチーズなどを豚バラで巻いた。「野菜が取れないので女性にも人気」（小島さん）だとか。もちろんラーメンの注文もOK。2階からおかもちに入れて出前してくれる。24時間営業。年中無休。問い合わせは（092・262・0433）。



官兵衛ゆかりの国宝

2014年1月から、NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放送が始まる。福岡市博物館（福岡市早良区）では、黒田家ゆかりの重要なコレクションを期間限定で展示している。12月27日までは、豊臣秀吉が官兵衛の息子黒田長政に宛てた朱印状でこちらは本邦初公開となる。

14年1月5日　2月2日は織田信長が官兵衛に授けた国宝の名物「庄切長谷部」（へしきりはせべ）という刀を公開。2月4日　3月2日は官兵衛が小原攻めで降伏を説得した北条氏から仲介の礼として受け取った国宝太刀名物「日光一文字」が公開される。

観覧料は一般200円。開館時間は午前9時半から17時半まで。月曜休館。祝日の場合は翌火曜休み。問い合わせは（092・845・5001）。



地元の偉人に思いはせる

福岡県久留米市の石橋美術館では「からくり儀右衛門展」が開かれている。江戸時代末期から明治時代に活躍した久留米出身の技術者で、からくり人形や便利な生活器具を考案し「からくり儀右衛門」と呼ばれた田中久重。東芝の前身を作った人物の、からくり人形をはじめとする発明の歴史を实物、模型、パネルなど約100点の展示を通じて紹介している。

目玉は13年8月に機械遺産として認定された「弓曳き童子」。和時計の最高傑作と言われる「万年時計」の複製も展示する。西洋技術の導入などで日本のモノづくりの基礎を築いた一人とわかる。

入館料は大人500円。期間は1月16日まで。
問い合わせは事務局（0942・30・9225）へ。

写真は（上段から時計回りに）福岡ビル屋上のカキ焼き（「天神サイト」提供）、深川製磁の縁起皿、一蘭屋台、「九州まちの修理屋さん」ポスター

